

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策1-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農産園芸課長 森上 浩平	電話番号	0852-22-5123
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	島根の活力ある水田農業推進事業		
目的	(1) 対象	水稲・麦・大豆・雑穀生産者	
	(2) 意図	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化に対応した優良品種への転換による高品質・良食味米生産 ・米の生産調整に対応した麦・大豆・そば等の生産拡大・安定供給 	
事業概要	水田農業の推進を図るため、水稲においては『地球温暖化に対応した新品種導入の推進』、『優良種子の安定生産』、転作作物においては『麦・大豆等の戦略作物の振興』に取り組んでいる。 上記の事項を踏まえ、水田農業の所得を向上させ、水田農業の持続的な発展を目指していく。 平成27年度の当事業については、「島根の水田農業緊急総合支援対策」も含め組み替え拡充している。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			米の新品種作付面積	目標値	270.00	700.00	1,000	
式・定義	米の新品種「つや姫」及び極早生品種「ハナエチゼン」に替わる新品種の作付面積	実績値	0.00	280.00	564.00	704.00		
		達成率		103.70	80.60	70.40	%	
指標名	主要転作作物の新品種導入面積	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		目標値		30.00	30.00	30.00	50.00	
式・定義	実需者から評価される新たな麦、そばの新品種導入面積	実績値	6.00	46.00	62.00	94.00		
		達成率		153.30	206.70	313.40	%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	2,903	15,200
うち一般財源(千円)	2,903	15,200

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・米の新品種「つや姫」については、米をめぐる環境が非常に厳しく目標作付面積に大幅に到達していない。平成27年度の作付面積は平成26年度とほぼ横ばいである。
 また、「ハナエチゼン」に替わる新品種については、現状の厳しい市場情勢を踏まえ、販売の目途が立たないことを最大の理由として採用を見送った。
 ・サチホゴールド（麦新品種）は順調に作付面積を伸ばし、平成27年度では既存品種「アサカゴールド」から全面切替されるため大幅な作付面積増の見込み。
 ・出雲の舞（そば新品種）は平成26年度と比較して微増する見込み。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・「つや姫」主産地の生産拡大のため、カンドリーエレベーターの再編整備や種子生産体制を整えた。
 ・「つや姫」については、平成26年度米食味ランキングで「特A」を獲得。「つや姫」マイスターの活動支援、栽培技術の高位平準化を目指した成果である。
 ・全農を中心に、「つや姫」販売先ごとの実態ニーズ把握、新たな統一ロゴマーク・精米袋を作成するなどし有利販売に努めた。
 また、島根県立大学短期大学部と連携し、「おいしさの見える化」に取り組んでいる。
 ・種子場の在り方検討に基づき、今後のビジョンを明確化した。
 ・麦の品種転換が円滑に行われた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・「つや姫」の作付目標面積に対して作付面積が伸び悩んでいる。（コシヒカリの品質低下が目立つ平坦部で、コシヒカリから「つや姫」への作付転換が不十分）
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・1等米比率はコシヒカリに比べ安定しているが、目標水準に達していない。
 - ・肥料・農薬が統一されていないため、特別栽培米のメリットが販売単価等に活かされていない。
 - ・米をめぐる厳しい販売環境の中での米価下落。
- ③原因を解消するための「課題」
- ・生育層（葉色・土壌）に応じた施肥体系の確立など本県に適した技術確立が必要。
 - ・JA統合契機とした資材統一が必要。
 - ・米価下落に伴い、農家経営が大変厳しい状況にあることを踏まえ、今後の営農が継続できるような対策が必要。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・平成27年度は、試験研究、普及組織、「つや姫」マイスターが一体となって、食味・品質安定のための栽培技術確立、資材統一に向けたプロジェクトに取り組む。
 ・1.9mm選別ふるい目・食味計の導入により島根米のレベルアップ、米粒の大粒化に向けた技術指導の徹底による他産地との差別化により、平成30年を目途に「売れる米づくり」をより一層強化する。
 ・米価下落を踏まえ、生産・販売・経営対策を体系化した総合的な支援対策の実施。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）